２年Ｃ組音楽科学習指導案

１　題材名　　旋律が追いかけるように重なり合っていく面白さを味わおう
　　教材名　　鑑賞「フーガ　ト短調」（Ｊ.Ｓ.バッハ　作曲）

２　題材について
　≪学習指導要領とのかかわり≫

Ｂ　鑑賞　（１）ア　音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。 〔共通事項〕ア　音色　テクスチュア　形式

（１）題材観
　本題材では、音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうことをねらいとして行う。
「フーガ　ト短調」は 4 声のフーガで、最初に示された主題が次々と追いかけるように現れ発展していく音楽であり、様々な声部に現れる旋律の重なり合いや絡み合い、転調、細かな音型の連続で複雑さを増す様子など、多声的な音楽のおもしろさや美しさを感じ取らせることができる楽曲である。また、パイプオルガンならではの荘厳かつ重厚な音の響きを味わうことができ、バッハの時代の音楽の特徴を様々な面から学ぶことのできる楽曲であると考える。
小学校での鑑賞は、4 年生での「ファランドール」や 5 年生での「アイネ　クライネ　ナハト　ムジーク」を通して、旋律が追いかけたり重なり合ったりする音楽を学習している。中学校ではそれらの学習を基として、さらに複雑な旋律の重なり合いや作曲家の生きた時代の音楽、楽器などと関わらせた学習に発展させ、より深く音楽を味わう学習につながるのではないかと考える。
　本校の 2 年生では、合唱コンクールの課題曲として「時の旅人」（深田じゅんこ作詞・橋本祥路作曲）を歌う。曲の後半部分に３つのパートが追いかけるように現れる場面があり、フーガの形式との関わりを持たせることができる。今後扱う合唱曲や鑑賞曲の中でも、多声的に重なり合う旋律のよさや面白さに気付き、楽曲を構造的にとらえて表現したり鑑賞したりする活動につなげたい。
　以上のことから、本題材を設定した。

（２）生徒の実態（２年Ｃ組　男子 15 人　女子 20 人　計 35 人）
　昨年度、１年生での鑑賞の授業は、「ジョーズ」「春」「魔王」を扱った。それぞれの学習では、音楽を聴いてイメージしたことや、表されている情景や物語の内容は、音楽のどの要素が関わっているのか、に注目しながら鑑賞を行った。個々が「気付いたこと」や「感じ取ったこと」を自由に書き出し、それらをグループで話し合い、要素ごとにまとめていくことを行った。（昨年度の生徒の鑑賞プリントを本指導案の後半に参考資料として添付。）

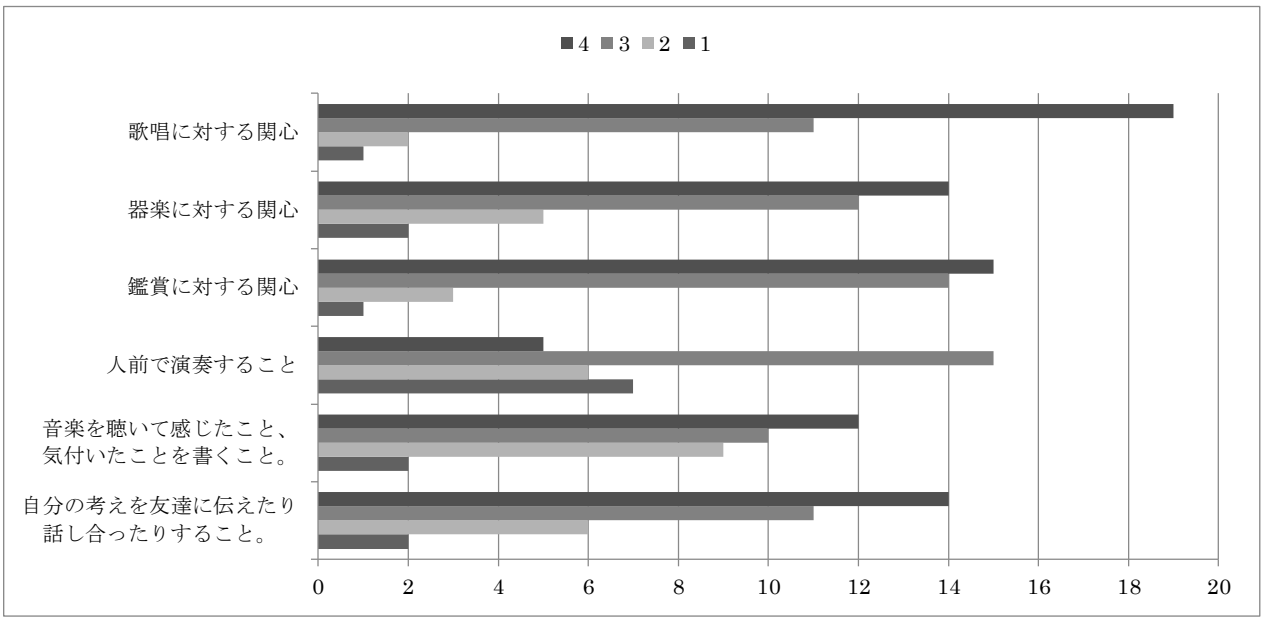
　今年度始めに本学級で音楽の授業に関する調査を行ったところ、以下のような結果がみられた。

（回答の仕方）＊数値は人数

関心高い　　関心低い

（好き・得意）←――――→（ 嫌い・苦手）

4　　3　　2　　1



歌唱、器楽、鑑賞ともに全体の８割から９割の生徒が「関心ある」「好き」と答えており、音楽全般に興味関心が高いことがわかる。しかし、人前で演奏したり何かを発表したりすることについては、「好きではない、苦手」と感じている生徒が４割程とやや多めの結果である。また、鑑賞の授業において、聴き取ったこと、感じ取ったことを文章や言葉で表現することについても、「好き、得意」と答えた生徒は３割程度であり、積極的な自己表現には苦手意識や不安感を持つ生徒が多めであることがわかった。しかし、自分の考えを友達に伝えたり、話し合ったりする活動については、８割の生徒が前向きな回答をしていることから、今後も題材に応じて自分の思いを表現したり、互いを認め合える場面を適切に設定したりすることを積み重ねていけば、より自信をもって自分の思いや意図を表現できるようになるのではないかと考える。

（３）指導観

今から約 300 年前に活躍したバッハは、それ以前の音楽をまとめ、対位法、フーガの技法を確立して西洋音楽の基礎を築いた人物として、「音楽の父」とも呼ばれる人物である。バッハの作品は、現代においてポップスやジャズの分野でもアレンジされて頻繁に演奏されたり、フーガの技法が取り入れられている楽曲も数多く見受けられたりする。私たちが日頃何気なく触れている音楽に、300 年以上前に生きていた音楽家の業績が影響していることを知ることも、音楽の楽しみを広げることになるのではないかと考える。

バッハの音楽は難解であるといわれることも多いが、「フーガ　ト短調」は鑑賞時間が短く、主題が現れたり変化したりする様子もわかりやすく、中学生にとって親しみやすい音楽と考える。また、パイプオルガンの音色は、アニメの番組やゲーム音楽などでしばしば使われ、中学生にも音色と楽器名の認知度は高いと思われる。西洋音楽の中でのパイプオルガンの位置づけや、楽器の構造を知ることで、さらに関心をもって聴くことが期待できる。

１年生の鑑賞では、曲で描かれている情景や物語と曲想の関係から聴き深めていく学習を中心に行った。本題材では、旋律が何重にも重なり、絡み合って発展する形式そのもののおもしろさを味わうことのできる音楽になると考える。

3　題材の目標

〇旋律が追いかけるように重なり合う音楽のおもしろさを味わう。

4　題材の評価規準及び学習活動の具体の評価規準

	ア　音楽への関心・意欲・態度	エ　鑑賞の能力
題材の評価規準	①音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりに関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	①音楽を形づくっている要素（音色、テクスチュア、形式）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受している。 ②音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを理解して、解釈したり価値を考えたりし、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。

5　研究の視点について

【視点２】主体的・対話的で深い学びの視点から工夫

新学習指導要領に盛り込まれた、「主体的・対話的で深い学びの視点からの実現」をふまえ、本授業では主に「対話的な学び」に重点を置いて展開する。対話的な活動が、単に「伝え合う」だけでなく、学びの質を高めていくための活動にするには、曲をどう聴かせるか、どのような言葉で投げかけるか（発問）、どのように話し合い活動をさせるか、という点において研究することが必要であると考える。

現在の２年生では、１年生のときより鑑賞の授業において２～4 名の小グループによる話し合い活動を取り入れてきた。自分の感じたことや考えたことを他者に伝える。他者の異なる考えに気付く。それぞれの意見を全体で発表し共有しあう。これらの活動から様々な音楽の聴き方があることに気付き、曲のよさや面白さを実感することができたのではないかと考えている。

本授業においては、最初の鑑賞で各自が聴き取ったこと、感じ取ったことをグループで意見を出し合い、出された意見を整理し、聴き取った音楽の特徴はどのような要素が関わっているかを考える中で思考を深めさせたい。さらに第１部を「音の重なり方はどうなっているか」を聴き取る活動を行う。主題の現れ方、音の高さの変化など、学んでほしい観点を提示することで、自ら気付くことができる。グループで意見を交わすことで、様々な視点による考えを知り、新たな気付きを自ら発見することができ、学びの質が高まるものと考える。

6　題材の指導計画及び評価計画（２時間扱い）

次	時	〇学習内容　　・主な学習活動	評価規準
第1次	ねらい　曲の仕組みに注目して聴き、フーガの形式を理解する。		
	第1時 本時	〇「フーガ　ト短調」の特徴を聴き取る。 ・全体を聴き、気付いたことや感じ取ったことを書き出す。 ・グループで意見交換し、付箋にまとめて発表する。 〇フーガの仕組みを理解する。 ・第１部を鑑賞し、主題が現れる様子を聴き取る。 ・主題が現れる回数や音の高さに注目して聴く。 ・気付いたことをグループで話し合い、発表する。	〈音楽への関心・意欲・態度①〉 音楽を形づくっている要素（音色、テクスチュア、形式）や構造と曲想との関わりに関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 （観察）

		・フーガの仕組みを確認する。	
	ねらい　パイプオルガンの音色を味わって鑑賞し、「フーガ　ト短調」のよさや美しさを紹介文にまとめる。		
	第 ２ 時	○第２部の鑑賞をする。 ・主題の音の高さや調に注目しながら鑑賞し、曲が発展する様子を聴き取る。 ○パイプオルガンについて知る。 ・パイプオルガンの構造についてのＤＶＤを視聴し、音が出る仕組みや音色について理解する。 ○これまでの学習から「フーガ　ト短調」のよさや美しさを紹介文にまとめる。 ・音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを理解しながら鑑賞する。 ・紹介文を発表しあう。 ・まとめの鑑賞として、ＤＶＤで視聴する。	〈鑑賞の能力②〉 音楽を形づくっている要素（音色、テクスチュア、形式）や構造と曲想との関わりを理解して、解釈したり価値を考えたりし、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 （発表・ワークシート）

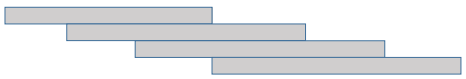
７　本時の学習（１／２）

（１）本時の目標

○曲の仕組みに注目して聴き、「フーガ　ト短調」のおもしろさを味わう。

（２）展開

時配	学習内容と学習活動	○教師の関わり　◆評価規準（評価方法）
２５	１　「フーガ　ト短調」を鑑賞し、曲の特徴を聴き取る。 ・気付いたこと、感じ取ったことをワークシートに記入しながら聴く。（個） ・自分の考えをグループで伝え合う。(グループ) ・同じ意見はまとめて１枚の付箋に書き、黒板に貼る。(グループ) 【予想される意見】 ◇暗い　◇怖い　◇途中で明るくなる ◇高い音や低い音がある　◇同じ旋律が繰り返される ・出された意見をもとに、曲想に関するものと、要素に関わるものを整理してまとめていく。 ・形式やテクスチュアなど、曲の構造に関わるものを見つける。（全体） ・曲名、作曲者、演奏している楽器を知る。	○気付いたこと、感じ取ったことは分けずにどんどんメモを取らせる。 ○４人組のグループで、司会、記録、発表者を決めて活動する。 ○同じような意見を集め、知覚、感受した内容を整理する。 ○それぞれ意見がどのような音楽の要素なのかを考えさせる。 ○生徒の意見から曲の構造、形式に関するものを取り上げながら本時の目標を確認する。

	「フーガ　ト短調」　バッハ作曲 パイプオルガン ２　本時の目標	
２	曲の仕組みに注目して聴き、「フーガ　ト短調」のおもしろさを味わおう。	
１５	３　第１部を鑑賞して主題の現れ方を調べ、フーガの形式について知る。 ・主題を歌い覚える。（全体） 〈第１部の鑑賞１回目〉（個・グループ） ・主題がどのように現れるかに注目して聴く。 ・各自が聴き取ったことをグループで意見交換し、ホワイトボードに書き出す。 〈第１部の鑑賞２回目〉（個・グループ） ・１回目で聴き取ったことを確かめる。 ・再度グループで話し合い、意見をまとめる。 ・それぞれ聴き取ったことを発表する。 【予想される意見】 ◇主題は４回出てくる。 ◇高い音からだんだん低くなる。 ◇初めは１本の旋律だったのが、増えてくる。 ・教科書を見ながら第１部を再度鑑賞し、フーガの形式について理解する。	○冒頭部の主題を楽譜で示す。拍子と速度を確認して歌う。 ○それぞれの意見は、言葉や図などを使い自由にホワイトボードに記入する。 ○新たな気付きはなかったか、積極的に意見交換するように声をかける。 ◆音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりに関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。〈音楽への関心・意欲・態度①〉　（観察） ・フーガの構造を楽譜や掲示物で視覚的に確認する。 例）  ○主題は４回現れる、高い音から順に現れることを全体で確認する。
８	４　本時のまとめの鑑賞をする。 ・第２部以降にも主題が繰り返し現れる様子に気を付けながら、全体を味わって鑑賞する。 ・本時の学習でわかったことや感じたことをプリントに記入する。	○主題が繰り返し登場し、重なり合いながら発展していく様子に注目して鑑賞させる。音の高さや、調の変化などに注目することを助言する。